

【関連企画】

トークイベント
「超絶技巧の未来」

超絶技巧展第3弾の開催にあたり、監修者の山下裕二先生と出品者の稲崎栄利子氏、長谷川清吉氏により、超絶技巧の未来の姿を探る鼎談

2023年2月11日(土・祝) 14:00~15:30

[出演] 山下裕二(明治学院大学教授)、稲崎栄利子(陶芸作家、本展出品者)、長谷川清吉(金工作家、本展出品者)

[会場] セラミックパークMINO 国際会議場

*聴講無料(ただし観覧券半券を提示)、要事前申込

語りの会
「樋口一葉 うもれ木」

1998年から樋口一葉作品のひとり芝居に取り組み、NHK朝の連続小説「花子とアン」「とと姉ちゃん」の山梨ことば指導にも携わった女優 奥山眞佐子氏により、本展出品作の成瀬誠志と深く関わる一葉「うもれ木」を筆の音と共に

2023年3月4日(土) 14:00~15:30

[出演] 奥山眞佐子(女優)

[会場] セラミックパークMINO 国際会議場

*聴講無料(ただし観覧券半券を提示)、要事前申込

ワークショップ
「切り絵体験」

2023年3月18日(土) 14:00~15:30

[講師] 盛田亜耶(切り絵作家、本展出品者)

[会場] 岐阜県現代陶芸美術館 プロジェクトルーム

*参加無料(ただし観覧券半券を提示)、要事前申込

夕暮れミュージアム
美術館 de インスタ映え!

展示会場内で自由に撮影ができます。

2023年2月11日(土・祝)、18日(土)、25日(土)、3月4日(土) いずれも16:30~18:00

*要観覧券、事前申込不要

※他のお客様の迷惑とならないようお願いいたします。

ギャラリートーク
担当学芸員による展示解説

*要観覧券、事前申込不要

※開催日時は当館HPをご覧ください。

In the Genes,
Taking Marvelous Meiji
Craftsmanship
into the Future

各催事の申込方法や受付開始日は
ホームページでご確認ください



◎同時開催 ギャラリー II

THE GIFTS —安藤基金コレクションから— 日本の陶芸—
コレクション・ハイライト

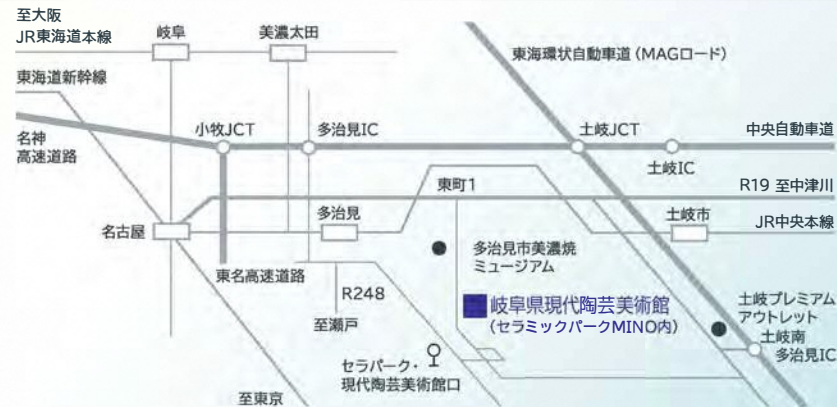
新収蔵作品展 —令和3年度新収蔵品2—

◎ 観覧料	団体(20名以上)	
一般	1,000円	900円
大学生	800円	700円
高校生以下	無料	

※以下の手帳等をお持ちの方、および付き添いの方1名まで無料
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、特定医療費(指定難病)受給者証

岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5(セラミックパークMINO内)
TEL.0572-28-3100 FAX.0572-28-3101
URL <https://www.cpm-gifu.jp/museum>
Twitter [@gpmomca](https://twitter.com/gpmomca)
Facebook <https://www.facebook.com/cpm.gifu.museum>



電車でのアクセス
東京・大阪方面 ▶名古屋駅でJR中央本線に乗り換え
多治見駅から
◎タクシー約10分
◎多治見市コミュニティバス「オリバ観光ルート」約20分
▶「セラミックパークMINO」下車 ※土・日・祝のみ運行
◎東鉄バス「瑞浪駅前」行き、「妻木上郷」行き、「東駄知」行き約15分
▶「セラパーク・現代陶芸美術館」下車 ▶徒歩約10分

お車でのアクセス
◎東京方面・東名高速 ▶豊田JCT経由
新東名高速 ▶豊田東JCT経由
◎富山方面・東海北陸自動車道 ▶美濃関JCT経由
◎長野方面・中央自動車道 ▶土岐JCT経由
東海環状自動車道 土岐南多治見ICから約5分
◎大阪方面・名神高速 ▶小牧JCT経由
中央自動車道 多治見ICから国道19号を
土岐・中津川方面に約10分 ▶東町1の交差点を右折

<https://www.cpm-gifu.jp/museum>

新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、予定に変更が生じる場合がございます。展示会の開催状況や会期中の催事については、当館HPをご覧ください。

2023 2/11 Sat → 4/9 Sun

[会場] 岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリー I

[開館時間] 10:00~18:00(入館は17:30まで) [休館日] 月曜日

[主催] 岐阜県現代陶芸美術館 [共催] 中日新聞社

[協力] 清水三年坂美術館 [監修] 山下裕二(明治学院大学教授)

[企画協力] 広瀬麻美(浅野研究所)



明治工芸とそのDNA
未来へ超絶技巧!

In the Genes,
Taking Marvelous Meiji
Craftsmanship
into the Future



上の鎖から下の足先まで
一本の木から
彫り出された木彫!

【木彫】前原冬樹(1962年生まれ)
《「一刻」スルメに茶碗》(部分)
2022年

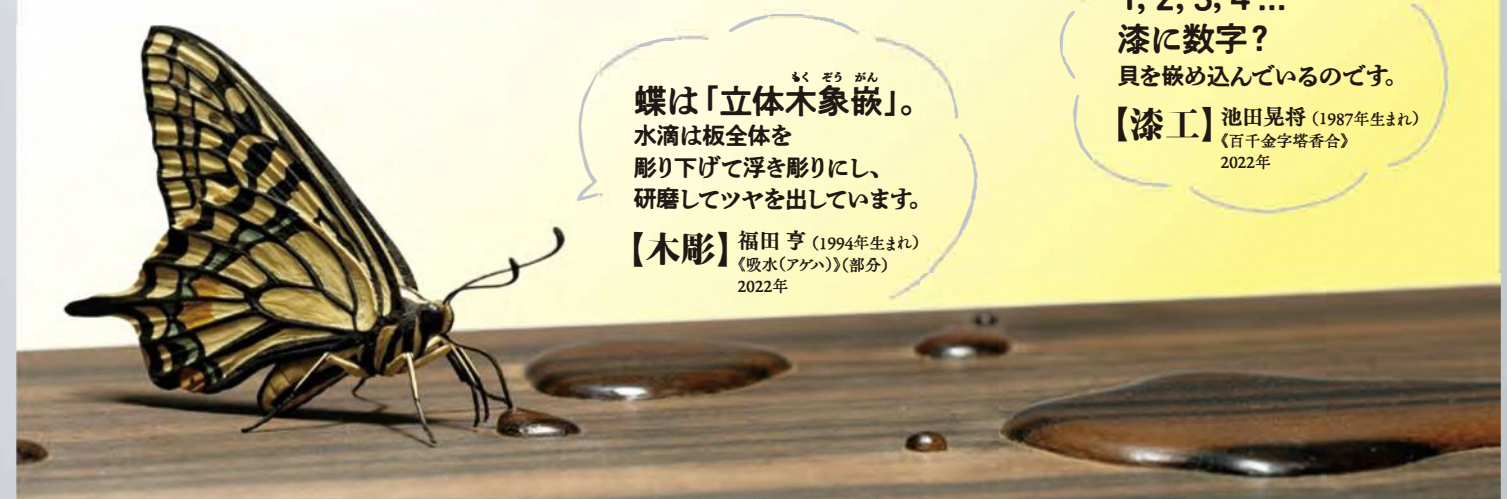


1, 2, 3, 4 ...
漆に数字?
貝を嵌め込んでいるのです。

【漆工】池田晃将(1987年生まれ)
《百千金字塔香合》
2022年

蝶は「立体木象嵌」。
水滴は板全体を
彫り下げて浮き彫りにし、
研磨してツヤを出しています。

【木彫】福田亨(1994年生まれ)
《吸水(アケバ)》(部分)
2022年



岐阜県現代陶芸美術館では開館20周年を記念し、「超絶技巧」シリーズの第3弾となる「超絶技巧、未来へ！明治工芸とそのDNA」展を開催いたします。

金属、木、陶磁、漆、ガラスなど様々な素材により、新たな表現領域を探求する現代作家の新作を中心にご紹介いたします。さらに、これらの作家を刺激してやまない清水三年坂美術館蔵や個人蔵の明治工芸の逸品も併せて展覧することで、進化し続ける超絶技巧の世界に迫ります。

孤独な環境の中、自らに信じられないほどの負荷をかける鍛錬を日々実践している現代作家たちは、明治工芸のDNAを受け継ぎ超絶技巧の未来を担う存在となるでしょう。



先に骨格と筋肉を作り、羽を一枚ずつ重ね付けたカラス。

【金工】

本郷真也 (1984年生まれ)
《Visible01 境界》
鉄、銀 2021年
CTスキャンすると内部の骨格と筋肉が視覚化。金属を叩いて変形させる鍛金技法を駆使。



稲崎栄利子 (1972年生まれ)
《Euphoria》
陶土、磁土、金彩、雲母銀
2023年
土のリングが織りなす布のように軽くなやかな磁器。

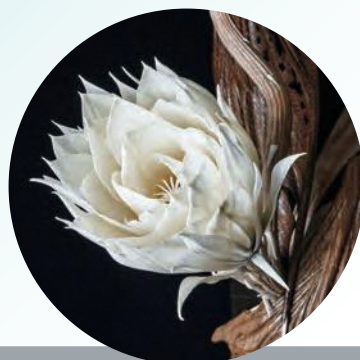
【陶磁】

曲げる、捻る、たたむなど自由自在！

【木彫】

大竹亮峯 (1989年生まれ)
《月光》
鹿角、神代檜、楓、樫 2020年
鹿角を使った月下美人の47枚の花弁。花器はコウモリの2枚の羽がモチーフ。

花器に水を注ぐとゆっくり花が開く驚きの仕掛け。



【金工】

長谷川清吉 (1982年生まれ)
《銀製 梱包材》
銀 2023年
板状の銀を雄型と雌型で挟みながら、金槌で打ち出し凸部をつかったプチプチ。



In the Genes, Taking Marvelous Meiji Craftsmanship into the Future

【有線七宝】

並河靖之 (1845-1927)
《草花図花瓶》
清水三年坂美術館蔵
細やかな装飾ゆえ比較的小品が多い並河靖之の七宝。本作は30センチを超える大作で類例は僅か。



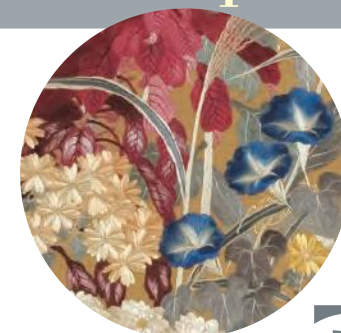
【無線七宝】

濤川惣助 (1847-1910)
《富嶽図小箱》
最終の焼成で植線を抜く無線七宝の技術を駆使した富嶽図の小箱。原画は渡辺省亭。



【陶磁】

成瀬誠志 (1845-1923)
《上絵金彩昆虫唐子図碗》
岐阜県現代陶芸美術館蔵
唐子と昆虫が交互に描かれる。虫行列の絵付けを覆うように白盛りの網目が施され、籠の中に入れられているような演出。



【刺繍絵画】

無銘
《花鳥図屏風》
清水三年坂美術館蔵
刺繍ならではの絹糸の輝きが堪能できる華やかな屏風。

